

名 取 北 高 校 だ よ り



名北の風

令和4年度第9号(2023/2/28 発行)

女子バスケットボール部県ベスト8

1月に行われたバスケットボール県新人大会で、女子チームがベスト8に入り、岩手・宮城対県選抜バスケットボール大会に出場しました。

岩手県の上位校と対戦し、僅差で敗れたものの、県総体に向けての良い経験となりました。



「みやぎ高校生フォーラム」に参加しました

2月4日(土)に「みやぎ高校生フォーラム～私たちの志の地域貢献」が行われ、生徒会執行部、奉仕活動部が参加しました。他校の学習成果発表や意見発表を聴き、その後県内の高校が14グループに分かれ、「未来を担う私たち高校生にできる地域貢献～新たな提案～」をテーマにディスカッションを行い、名取北高は、司会を担当しました。時間に制約があり、まとめるのも大変でしたが、実りあるグループ討議を行うことができました。

「大震災を語り継ぐ北高生の集い」

2月15日(水)の4校時に、「大震災を語り継ぐ北高生の集い」を実施しました。この行事は、東日本大震災で犠牲となった方々を悼み、震災の経験を語り継ぐことによって震災の風化を防ぎ、未来への教訓とすることを目的に行われています。第7回となる今年は、不二が丘小学校校長の荒明聖先生を講師にお迎えし、「「昔話」に学ぶ防災～わたしの教訓20～」と題してご講話をいただきました。荒明先生は震災当時、東松島市にある大曲小学校の教頭先生をなさっておられ、その際のご経験を「わたしの教訓20」としてお伝えくださいました。生徒たちは真剣に耳を傾けていました。

生徒の感想

もう12年も経ったのだなと改めて実感した。過去の記憶に忘れてしまっている部分もあるし、忘れてしまっているところも沢山あるなと思いました。今、少しだけでも震災のことを覚えてるのは私たちくらいしかないと思います。だからこそ、これからたくさんの人に伝えていかなければいけないし、一つも忘れてはいけないと思いました。色々考えるきっかけになってよかったです。(3年)

マニュアルに従うだけでなく、とっさに判断する柔軟な対応力も必要であることが分かりました。時間が経つにつれて記憶は薄れてしましますが、次の世代に伝えるためにも、自分から東日本大震災について学んでいこうと思います。(3年)

震災からかなりの時間が経過して少しずつ皆の記憶が薄くなりつつある時期に、改めて震災の事を忘れないことの大切さやあの経験をもとにこれからどうつなげていくのかなど、様々なことを考えさせられました。自分自身は当時のことを思い出したりすることもなく、普通に暮らしていますが、今でも思い出したりして苦しくなったりする人も一定数いると思います。そういった人達にもしっかり寄り添っていける人にはなりたいです。(2年)

震災の記憶はほとんどありません。小学校から震災の勉強をしてきて毎回のよう、私が実際に津波の前にしたら何ができるのだろうと考えます。当時の中高生はとても勇気ある人だと思います。だんだんと震災を体験した人が少なくなるにつれて伝承する人も減少し、震災で亡くなった人達、被害にあった人、植物、動物を知らない人がいるようになることがとても悲しく、あってはならないことだと思います。戦争や震災の辛さを何度も学ぶたびに、涙があふれてきます。生きるということがこんなにも当たり前でできることではないのだと改めて知ることができました。生まれてきたこと今を生かれることに感謝し、日々の生活を大切にしていきたいです。(1年)

これからは「震災を体験した者」より「被災者から思いを受け取った者」が社会を担うことになります。同じような悲惨な出来事を繰り返さないために、伝承しつづけていくべきだと考えます。(1年)



「大震災を語り継ぐ北高生の集い」で講話をしてくださった **荒明 聖**
(あらあけ きよし) 先生にインタビューしました。先生は、仙台市のご出身です。

名取市立不二が丘小学校校長 **荒明 聖先生**

A Q 教職について理由は？

本当は幼稚園で保育に携わりたくて大学では幼稚園教員養成課程に入学しましたが、ピアノがほとんど弾けなかった実情もあり、小学校教員になりました。

A Q 教員の仕事の楽しさや魅力は？

学級担任を外れて二十年になりますが、学級担任として子どもたちの成長にふれられることが一番です。また、担任ではないものの管理職としては、(今も授業に入っています)荒れた学級や学年を立て直しにかかる労力と時間は相当であるものの、手の掛かる子どもたちが学習に参加するようになったり、勉強が分かったりとホントに小さな成長場面に出会えることが幸せに感じます。子どもたちの成長。発達に少しは寄与できていると思えることが魅力です。

A Q 仕事での一番の思い出は？

やはり東日本大震災での被災・犠牲・復旧ですが、近年ではコロナ禍で「どうしたら、リモートではなくリアルで学校生活を通常に近いスタイルで行わせるか」を、知恵を出し合っただけでなんとか実施にこぎ着けた達成感があることです。

A Q 日頃から心掛けていることは？

自身の健康とメンタル面を安定させて教職員・子どもたち・保護者・地域住民と接し、穏やかで健やかな姿の校長像を目指しています。

A Q これから取り組みたいことや目標は？

小学校教員ですが、長年、中学校の合唱コンクール審査や他県での防災講演に携わってきました。高校での実践は名取北高が初めてでしたので、この貴重な経験をふまえて他の高校(願わくば、防災に係る専門課程のある高校)での指導や支援にかかわってみたいと思っています。

A Q 北高生の印象は？

一言で言うとう、真摯な姿勢が伝わる五十分間の講演視聴でした。後日届く感想文を読むことを楽しみにしています。

A Q 北高生にメッセージを！

講演プレゼンにも実にたくさんのメッセージを盛り込みましたが、自分を大事に、他人を大切に。振り返ってみてよかったなあと考える人生を歩んでほしいと願います。でも、歩みを進められない時には足踏みを、足踏みすらできない時には動きを休め、エネルギーを蓄えていずれ一歩を踏み出すタイミングを見極めてください。
「今、この一瞬を大切に」

「総合的な探究の時間」発表会

2月8日(水)に2年生、2月14日(火)に1年生各クラスの代表が、1年間「総合的な探究の時間」で取り組んできたことについて、発表会を行いました。2年生は、尚絅学院大学、東北大学の先生方に、1年生は宮城県総合教育センターの先生方に講評をいただきました。



出前授業が行われました

2月16日(木)に2年生理系3クラスを対象に出前授業が行われました。経済産業省資源エネルギー庁より、宮城県出身の岩渕雄太様に来校いただき、「東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水について考える」という題で、福島復興へ向けた取り組みや、ALPS処理水について学びました。また、学びを基に話し合ったことを共有し、これからの復興課題について考える貴重な機会となりました。



3月行事予定

1日(水)卒業式(1・2年生は12:00まで敷地内立入禁止) 2日(木)特編授業(4時間)
3日(金)特編授業・入試準備 6日(月)高校入試 16日(木)高校入試合格発表
17日(金)街頭交通指導 新2・3年個人写真撮影 進路ガイダンス(1年3~4校時, 2年5~6校時)
20日(月)スタディサポート カウンセリング 24日(金)終業式(午前授業)
29日(水)離任式